

育雛状況調査表

資料 1 - 2

平成 27・28 年度 孵化状況

年度	血統登録 番号	卵番号	親個体の識別		飼育園	採卵日	孵化日	性別	備 考
			♂	♀					
平成 27 年度	N2	No. 1	W1 (黒赤黒 黄黄)	W2 (黄白 空黒)	上野	6/5	6/28	メス	9/5 死亡 (69 日齢)
	N3	No. 2	W1 (黒赤黒 黄黄)	W2 (黄白 空黒)		6/5	6/28	オス	8/27 死亡 (60 日齢)
	N4	No. 3	W3 (空白 ー)	W4 (黒黒 空赤)		6/5	6/28	オス	8/26 死亡 (59 日齢)
	N5	No. 4	W5 (白青 赤赤)	W6 (空黒 黄黒)		6/5	6/28	メス	9/6 死亡 (70 日齢)
	N1	No. 5	W5 (白青 赤赤)	W6 (空黒 黄黒)		6/5	6/27	メス	9/4 死亡 (69 日齢)
	N6	No. 6	W7 (黄空 白黄)	W8 (青黄 赤)	富山	6/23	6/27	オス	
	N7	No. 7	W7 (黄空 白黄)	W8 (青黄 赤)		6/23	6/27	メス	7/4 死亡 (7 日齢)
	—	No. 8	W9 (赤 赤黒)	W10 (黄赤黄 白青)		6/23	—	—	発生初期中止卵
	N9	No. 9	W9 (赤 赤黒)	W10 (黄赤黄 白青)		6/23	7/2	オス	
	N8	No. 10	W11 (赤 赤赤)	W12 (赤赤 赤白)		6/23	6/27	オス	
平成 28 年度	N10	No. 1	W1 (黒赤黒 黄黄)	W16 (白黄 空黒)	上野	6/3	6/26	オス	
	N11	No. 2	W1 (黒赤黒 黄黄)	W16 (白黄 空黒)		6/3	6/26	オス	
	N12	No. 3	W5 (白青 赤赤)	W6 (空黒 黄黒)		6/3	6/26	メス	
	N13	No. 4	W5 (白青 赤赤)	W6 (空黒 黄黒)		6/4	6/26	オス	
	N14	No. 5	W7 (黄空 白黄)	W8 (青黄 赤)	富山	6/21	6/28	オス	
	N15	No. 6	W7 (黄空 白黄)	W8 (青黄 赤)		6/21	6/28	メス	
	N16	No. 7	W3 (空白 ー)	W4 (黒黒 空赤)		6/21	6/29	オス	
	N17	No. 8	W3 (空白 ー)	W4 (黒黒 空赤)		6/21	6/29	オス	
	N20	No. 9	W13 (赤黒 白黒)	W12 (赤赤 赤白)	大町	6/21	7/1	オス	
	N21	No. 10	W13 (赤黒 白黒)	W12 (赤赤 赤白)		6/21	7/1	メス	
	N18	No. 11	W14 (黒空 黄赤)	W15 (不明)		6/21	6/30	オス	12/10 日逸出、同日保護収容
	N19	No. 12	W14 (黒空 黄赤)	W15 (不明)		6/21	6/30	メス	12/10 日逸出、捜索中

平成 29 年度 孵化・育雛状況

○東京都恩賜上野動物園

園館	血統登録 番号	親個体		産卵	産卵日	受精 有無	受精卵 移動先	発生状況		孵化日	性別	備 考
		♂	♀									
東京都恩賜上野動物園	N24	N11	N12	U-01	5/23	有精卵	大町	→	→	6/21	メス	成育中
				U-02	5/25	有精卵	大町	→	後期中止卵			
				U-03	5/26	無精卵						
	N25			U-04	5/28	有精卵	大町	→	→	6/21	オス	成育中
				U-05	5/30	有精卵	石川	→	後期中止卵			
	N26			U-06	6/1	有精卵		→	→	6/27	メス	成育中
	N27			U-07	6/2	有精卵		→	→	6/27	メス	成育中
	N29			U-08	6/4	有精卵	石川	→	→	6/28	オス	7/2 死亡 (4 日齢)
				U-09	6/5	有精卵	那須	→	後期中止卵			
	N35			U-10	6/7	有精卵	那須	→	→	7/5	メス	7/14 死亡 (9 日齢)
	N36			U-11	6/9	有精卵	那須	→	→	7/5	メス	7/7 死亡 (2 日齢)
	N34			U-12	6/10	有精卵	那須	→	→	7/4	オス	7/8 死亡 (4 日齢)
				U-13	6/12	有精卵	那須	→	後期中止卵			
				U-14	6/14	有精卵	石川		後期中止卵			
				U-15	6/15	有精卵		→	初期中止卵			
				U-16	6/17	有精卵	石川		後期中止卵			
				U-17	6/20	無精卵						
				U-18	6/25	有精卵		→	初期中止卵			
				U-19	6/27	無精卵						
				U-20	6/29	無精卵						
				U-21	6/30	無精卵						
				U-22	7/5	無精卵						

○富山市ファミリーパーク

園館	血統登録 番号	親個体		産卵	産卵日	受精 有無	受精卵 移動先	発生状況		孵化日	性別	備 考
		♂	♀									
富山市ファミリーパーク		N17	N15	T-01	5/20	有精卵		初期中止卵				
	N22			T-02	5/22	有精卵		→	→	6/17	オス	6/21 死亡 (4日齢)
	N23			T-03	5/24	有精卵		→	→	6/17	オス	成育中
				T-04	5/25	有精卵		初期中止卵				
	N28			T-05	5/27	有精卵	上野	→	→	6/27	メス	成育中
				T-06 (破卵)	5/30	—						
				T-07	5/30	有精卵	上野	→	後期中止卵			
				T-08	6/1	有精卵		初期中止卵				
				T-09	6/3	有精卵	上野	→	後期中止卵			
				T-10	6/5	無精卵						
				T-11 (破卵)	6/6	無精卵						
				T-12	6/7	有精卵		初期中止卵				
				T-13	6/9	無精卵						
				T-14	6/10	有精卵		初期中止卵				
				T-15	6/12	有精卵		初期中止卵				
				T-16	6/13	有精卵		初期中止卵				
				T-17	6/15	有精卵		初期中止卵				
				T-18	6/16	有精卵		初期中止卵				
				T-19	6/18	有精卵		初期中止卵				
				T-20	6/21	有精卵		初期中止卵				

○大町市山岳博物館

園館	血統登録 番号	親個体		産卵 番号	産卵日	受精 有無	受精卵 移動先	発生状況		孵化日	性別	備 考	
		♂	♀										
大町市山岳博物館	N30	N18	N21	0-01	6/3	有精卵		→	→	7/2	メス	成育中	
	N31			0-02	6/5	有精卵		→	→	7/2	メス	7/8 死亡 (6 日齢)	
	N32			0-03	6/7	有精卵		→	→	7/2	メス	成育中	
	N33			0-04	6/9	有精卵		→	→	7/2	メス	7/8 死亡 (6 日齢)	
	N37			0-05	6/11	有精卵	上野	→	→	7/14	オス	7/18 死亡 (4 日齢)	
	N40			0-06	6/13	有精卵	富山	→	→	7/13	メス	成育中	
	N38			0-07	6/15	有精卵	上野	→	→	7/14	メス	7/17 死亡 (3 日齢)	
	N41			0-08	6/17	有精卵	富山	→	→	7/13	オス	成育中	
	N39			0-09	6/19	有精卵	上野	→	→	7/14	オス	成育中	
	N42			0-10	6/21	有精卵	富山	→	→	7/13	オス	7/26 死亡 (13 日齢)	
	N43			0-11	6/23	有精卵	那須	→	→	7/23	メス	成育中	
				0-12	6/26	有精卵			初期中止卵				
				0-13	6/28	有精卵			初期中止卵				
				0-14	6/30	有精卵			初期中止卵				
				0-15	7/2	有精卵			初期中止卵				
				0-16	7/5	有精卵			初期中止卵				
				0-17	7/8	無精卵							
				0-18	7/13	無精卵							

飼育状況（平成 29 年 11 月 30 日現在）

孵化年度	血統登録 番号	飼育園館	性別	親個体		卵番号	孵化日	備 考
				♂	♀			
平成 27 年度	N6	富山	オス	W7	W8	2015-06	2015/06/27	
	N8	富山	オス	W11	W12	2015-10	2015/06/27	
	N9	富山	オス	W9	W10	2015-09	2015/07/02	
平成 28 年度	N10	上野	オス	W1	W16	2016-01	2016/06/26	
	N11	上野	オス	W1	W16	2016-02	2016/06/26	
	N12	上野	メス	W5	W6	2016-03	2016/06/26	
	N13	上野	オス	W5	W6	2016-04	2016/06/26	
	N14	富山	オス	W7	W8	2016-05	2016/06/28	
	N15	富山	メス	W7	W8	2016-06	2016/06/28	
	N16	富山	オス	W3	W4	2016-07	2016/06/29	
	N17	富山	オス	W3	W4	2016-08	2016/06/29	
	N18	大町	オス	W14	W15	2016-11	2016/06/30	
	N20	大町	オス	W13	W12	2016-09	2016/07/01	
N21	大町	メス	W13	W12	2016-10	2016/07/01		
平成 29 年度	N23	富山	オス	N17	N15	T-03	2017/06/17	
	N24	大町	メス	N11	N12	U-01	2017/06/21	
	N25	大町	オス	N11	N12	U-04	2017/06/21	
	N26	上野	メス	N11	N12	U-06	2017/06/27	
	N27	上野	メス	N11	N12	U-07	2017/06/27	
	N28	上野	メス	N17	N15	T-05	2017/06/27	
	N30	大町	メス	N18	N21	0-01	2017/07/02	
	N32	大町	メス	N18	N21	0-03	2017/07/02	
	N40	富山	メス	N18	N21	0-06	2017/07/13	
	N41	富山	オス	N18	N21	0-08	2017/07/13	
	N39	上野	オス	N18	N21	0-09	2017/07/14	
	N43	那須	メス	N18	N21	0-11	2017/07/23	

飼育個体数一覧（平成 29 年 11 月 30 日現在）

飼育園館	性別	H27 孵化個体	H28 孵化個体	H29 孵化個体	計
上野	オス	0	3	1	4
	メス	0	1	3	4
	計	0	4	4	8
富山	オス	3	3	2	8
	メス	0	1	1	2
	計	3	4	3	10
大町	オス	—	2	1	3
	メス	—	1	3	4
	計	—	3	4	7
那須	オス	—	—	0	0
	メス	—	—	1	1
	計	—	—	1	1
合計		3 (♂3)	11 (♂8♀3)	12 (♂4♀8)	26 (♂15♀11)

1. 平成 29 年度 主な飼育状況 (平成 29 年 11 月 30 日現在)

①上野・富山方式

施設	東京都恩賜上野動物園					
個体No.	N26 (U-06)	N27 (U-07)	N28 (T-05)	N37 (0-05) 死亡 (4 日齢)	N38 (0-07) 死亡 (3 日齢)	N39 (0-09)
性別	メス	メス	オス	オス	メス	オス
経過 (概要)	<p>孵化前:N27、28 は卵殻に打殻傷は確認できたが、自力での孵化が認められなかったため、気室部分の卵殻を取り除くなど介助により孵化をさせた。</p> <p>1 日齢:N26、27、28 を孵卵器ハッチャーから育雛箱に移し給餌を開始した。N28 は両脚が開脚し起立不能のため、孵卵器内のハッチャー内で脚矯正をしながら給餌前に 5%ブドウ糖液をシリンジとカテーテル(24G の留置針の外套)で飲ませた。その後は脚が改善するまで、給餌時のみ育雛箱、その他はハッチャー内に設置した矯正用容器に収容した。N28 の脚異常は孵化後、約 48 時間で改善した。</p> <p>3 日齢:N27、28 は低血糖の症状が確認されたため、約 2 時間おきに 5%のブドウ糖液に全卵粉などを混ぜ与え、ミルワームの給餌も開始した。低血糖症の改善を目的に与えた液状飼料は 7 日齢まで、ミルワームは体重減少時に給与した。</p> <p>65 日齢:深夜に何かに驚き、飛び跳ねるなどの行動が確認され、脱羽などが確認された。</p> <p>66 日齢:N28 が N26 を激しく追い、突っつくなどの行動が確認されたため、N28 のみを隔離飼育に切り替えた。</p> <p>75 日齢:個体識別用のカラーリングを装着した。</p> <p>95 日齢:2 羽、1 羽での飼育を継続し、状態は安定している。</p> <p>135 日齢:N28 が膨羽、食欲不振などが確認されたが、保温などで症状が改善した。</p>			<p>孵化前:孵化予定日に自力での孵化が認められなかった。翌日にも自力で孵化が確認できなかったため、N27、28 同様に全卵介助により孵化させた。孵化状態が思わしくなかったため、N28 同様に孵卵器内ハッチャーにて 5%ブドウ糖をシリンジとカテーテル(24G の留置針の外套)で飲ませ経過を観察した。</p> <p>1 日齢:3 羽を孵卵器ハッチャーから育雛箱に移し、給餌を開始した。</p> <p>3 日齢:N38 は 18 時 20 分にケージ内にて仰向けで脚を伸ばし倒れていた。5%ブドウ糖液を飲ませてハッチャー内で保温するが、18 時 37 分死亡を確認した。</p> <p>4 日齢:N37 は 2 時 40 分にケージ内にて動かなくなり、死亡を確認した。死亡個体の状態などから低血糖による衰弱が疑われた。N39 は低血糖での衰弱を防ぐ目的で、5%ブドウ糖液と全卵粉をカテーテル給餌し、給餌後はミルワームを 2 時間おきに給与した(12 日齢まで)。1 羽飼育となったため個体を落ち着かせる目的でケージ内に羽はたき、鏡の設置、ラジオなどの音声を流すなど飼育環境の改善に努めた。</p> <p>58 日齢:個体識別用のカラーリングを装着した。</p> <p>78 日齢:1 羽での飼育を継続し、状態は安定している。</p> <p>102 日齢:盲腸糞が水分過多や水溶性になるなど状態が不安定な期間が 7 日間続いたが、整腸剤投与で改善した。</p>		

施設	富山市ファミリーパーク					
個体No.	N22 (U-06) 死亡 (4日齢)	N23 (U-07)		N40 (0-06)	N41 (0-08)	N42 (0-10) 死亡 (13日齢)
性別	オス	オス		メス	オス	オス
経過 (概要)	<p>1 日齢: 育雛箱に移動させ育雛を開始する。配合飼料、幼雛用飼料、ギシギシ(タデ科植物)、抗生物質の飲水投与、ハト用鉱物系飼料、ビタミン剤の添加を開始する。</p> <p>2 日齢: 2羽とも非常に落ち着きなく動き回る。</p> <p>4 日齢: N22、採食は確認するも体重の伸びがなく、嗜好性の高いタデ科植物やビルベリー[®]の給餌量を増やす。<u>午後1時31分、脚を投げ出し腹這いで動けない状態で反応が鈍く、体温の低下が見られた。皮下補液と経口でのブドウ糖の投与し、保温を行う。やや回復するも午後2時30分に横臥し、後肢を硬直させ、午後2時35分に死亡を確認する。</u></p> <p>N22の死亡でN23が1羽になってしまい、落ち着きがなくなったためライチョウのぬいぐるみを育雛箱内に置く。徐々にぬいぐるみに体を密着させて休むようになる。また、採食量を増やすためリンゴの刻み及びミルワームの給餌も開始する。</p> <p>5 日齢: <u>日中人がいないと落ち着きがなく、人がいることで落ち着くため、照明時間に合わせてラジオを聴かせる。ラジオを流している間は落ち着いている。</u></p> <p>6 日齢: 体重の伸びが悪いので4回給餌から5回給餌にする。</p> <p>8 日齢: 抗生物質の飲水投与は終了し、飲水にビタミン剤の混入を開始する。また、小松菜の給餌を開始する。</p> <p>9 日齢: 体重の伸びが出てきたので、給餌回数を4回に戻し、リンゴの刻み及びミルワームの給餌を終了する。</p> <p>15 日齢: ギシギシ(タデ科植物)の給与を終了する。</p> <p>26 日齢: ケージ(W550×800×H550 mm)2連で飼育する。</p>			<p>1 日齢: 育雛箱に移動させ育雛を開始する。配合飼料、幼雛用飼料、ギシギシ(タデ科植物)、リンゴの刻み、抗生物質の飲水投与、ハト用鉱物系飼料、ビタミン剤の添加を開始する。給餌回数は5回とした。ライチョウのぬいぐるみもケージ内に設置する。</p> <p>8 日齢: 抗生物質の飲水投与は終了し、飲水にビタミン剤の混入を開始する。また、小松菜の給餌を開始する。</p> <p>10 日齢: 体重の伸びが安定してきたので、給餌回数を4回に変更する。</p> <p>11 日齢: <u>N40の左眼が汚れ、濡れて涙を流しているようになる。</u></p> <p>13 日齢: <u>N42、朝に体重の減少が見られたが、通常通りに採食が見られる。しかし、30分後に横臥し、動けなくなる。その後、回復する。経口でブドウ糖の投与を行うが、再度、肢に力が入らずうずくまってしまい、午前8時30分に死亡を確認する。</u></p> <p><u>N40の左眼の症状がやや悪化している様子なので抗生物質の点眼を開始する。</u></p> <p>15 日齢: ギシギシ(タデ科植物)の給与を終了する。</p> <p>17 日齢: N42の左眼は、改善し抗生物質の点眼を終了する。</p> <p>30 日齢: ケージ(W550×800×H550 mm)2連で飼育する。</p> <p>51 日齢: 完全に保温を終了する。</p> <p>55 日齢: <u>互いに羽をつつき合っている様子なので、ケージ(W550×800×H550 mm)2連で1羽ごとの隔離飼育へ切り替える。</u></p> <p>63 日齢: 照明時間を乗鞍岳の照明時間設定に移行する。</p>		

	<p>49 日齡:完全に保温を終了する。 84 日齡:配合飼料をウサギ用ペレットのみに切り替える。 89 日齡:照明時間を乗鞍岳の照明時間設定に移行する。</p>	<p>84 日齡:配合飼料をウサギ用ペレットのみに切り替える。</p>
--	---	-------------------------------------

施設	那須どうぶつ王国				
個体No.	N34 (U-12) 死亡 (4日齢)	N35 (U-10) 死亡 (9日齢)	N36 (U-11) 死亡 (2日齢)	N43 (0-11)	
性別	オス	メス	メス	メス	
経過 (概要)	<p>孵化:N34、35 介助孵化</p> <p>1 日齢:N34、N35、N36 を各個体 1 羽ずつ育雛箱で管理する。配合飼料(GB1、RM4)、青菜(コマツナ、ハコベ、ギシギシ)、ミルワーム、抗生物質(OTC)の飲水投与、鳩用鉱物系飼料(プラスリン)、ビタミン剤(ネクトン)の添加、ライチョウ由来腸内細菌製剤の添加を開始する。</p> <p><u>N36 に曲指開脚がみられ、自力の採食行動が上手く行えていない。その後、歩行時の転倒回数が増加する。自力での正常な歩行が困難なため、転倒防止の措置を行う。</u></p> <p>2 日齢:UVB ライト点灯開始(3 時間点灯)。</p> <p><u>N36 に強制給餌、経口補液を行い、ハッチャー内での保温管理に切り替える。その後、足のスポンジ固定を試みるが、その途中で死亡。</u></p> <p>3 日齢:飲水変更(OTC+1.25%ブドウ糖液)、エッグフード、コケモモの給餌開始。</p> <p>4 日齢:放飼場での管理開始。(夜間は育雛箱)。</p> <p><u>N34 に歩行時のふらつきと転倒がみられる。徐々に状態悪化し、起立不能になる。ハッチャーでの保温管理に切り替え、強制給餌、経口補液を行う。その後、体を大きく反るような神経症状がみられ、死亡。</u></p> <p>5 日齢:カルシウム剤(ボレー粉)の添加開始。</p> <p>7 日齢:UVB ライト点灯時間変更(5時間点灯)</p> <p>9 日齢:<u>N35 夜間に育雛箱の保温下で死亡しているのを翌日確認。監視ビデオにより、死亡前、神経症状がみられる。</u></p>			<p>孵化:N43 介助孵化</p> <p>1 日齢:N43 を育雛箱で1羽で管理する。配合飼料(RM4、SDL、ラウディ、フォーミュラー)、エッグフード、ミルワーム、青菜(コマツナ、ハコベ)ブドウ糖 2.5%液を飲水投与、ライチョウ由来腸内細菌製剤、カルシウム剤(ボレー粉)、ビタミン剤(ネクトン)の添加を開始する。</p> <p>3 日齢:終日放飼場での管理開始。</p> <p>4 日齢:コケモモの給餌開始。</p> <p>8 日齢:UVB ライトの点灯開始。(3 時間点灯)</p> <p>11 日齢:UVB ライトの点灯時間変更(5 時間点灯)</p> <p>18 日齢:フォーミュラーの給餌終了。</p> <p>21 日齢:ライチョウ由来腸内細菌製剤投与終了</p> <p>23 日齢:飲水のブドウ糖の添加終了。</p> <p>39 日齢:配合飼料(ZPC)の給餌開始。</p> <p>60 日齢:フォーミュラー給餌再開。ホットスポット下 33℃に変更。</p> <p>69 日齢:SDL、エッグフードの給餌終了。</p> <p>70 日齢:ホットスポットの設置を夜間のみとする。</p> <p>76 日齢:バーディー中雛用飼料の給餌開始。</p> <p>82 日齢:UVB ライトの点灯時間変更 (8 時間点灯)</p> <p>83 日齢:給餌回数 2 回に変更。</p> <p>88 日齢:給餌回数 3 回に戻す。</p> <p>90 日齢:ハコベ、フォーミュラー、ラウディの給餌終了。リンゴの給餌開始。</p>	

			<p>92 日齢：バーディー中雛用飼料を成鶏用飼料に変更。 108 日齢：ZPC の給餌終了。 112 日齢：ホットスポット下 20～25℃に変更。 120 日齢：ホットスポットの設置を終了し廃温とする。 133 日齢：バーディー、リンゴの給餌終了。</p>
--	--	--	---

施設	いしかわ動物園	
個体No.	N22 (U-08) 死亡 (4日齢)	
性別	オス	
経過 (概要)	<p>1 日齢:配合飼料、幼雛用飼料、スイバ、小松菜、抗生物質の飲水投与、ハト用鉍物系飼料、ビタミン剤の添加を開始する。</p> <p>3 日齢:<u>よく歩き回るが、ふらつきが強い。腸糞、盲腸糞ともにやや水っぽいものを排泄するが、夕方に正常な腸糞に戻る。ホットスポットにて仰向けで寝ている時間が長い。寝て起きてを1~数分の短いスパンで繰り返す。ミルワームを給与するが興味を示すものの摂餌には至らず。飲水行動多い。体重の減少傾向が続く。</u></p> <p>4 日齢:<u>立ち上がり採餌も見られるが、前日に比べ活性が弱い。8:40、32℃50%に設定したハッチャーに移す。5%ブドウ糖を経口投与した後、やや改善がみられる。続いて10:30に5%ブドウ糖を経口投与。12:50、死亡を確認。</u></p>	

②大町方式

施設	大町市山岳博物館						
個体No.	N24 (U-01)	N25 (U-04)		N30 (0-01)	N31 (0-02) 死亡 (6日齢)	N32 (0-03)	N33 (0-04) 死亡 (6日齢)
性別	メス	オス		メス	メス	メス	メス
経過 (概要)	<p>0日齢: <u>N24 左肢第四趾が内側に指曲りあり、一時的な跛行。自家配合飼料へのネクトンSの添加量を0.2%から0.4%にして5日間給餌。→8日齢: N24の歩行に違和感なくなる。</u></p> <p>1日齢: N24、N25の2羽を育雛器1で、群れ飼いを開始(東棟)。自家配合飼料、リンゴ、小松菜、スイバ、ギシギシ、ビルベリーの葉を給餌。ミノサイクリン飲水投与開始。</p> <p>7日齢: スイバ、ギシギシ、ビルベリーの葉の給餌は終了。ミノサイクリン投与終了。</p> <p>22日齢: 自家配合飼料の組成を変更(飼料名 16-A→16-B)</p> <p>34日齢: 平飼い飼育へ移行。育雛器はコンクリート面にセットし、ヒーターによる保温は継続</p> <p>34日齢: <u>N25がN24の腰をつつき羽をむしる。以降アクリノール、希ヨードチンキを塗貼。→羽が揃うまで約60日間が経過。</u></p> <p>43日齢: 自家配合飼料の組成を変更(飼料名 16-B→16-C)</p> <p>52日齢: N24、25の温源室の温度設定を室温に設定し、廃温。</p> <p>82日齢: 4羽とも自家配合飼料の組成を変更(飼料名 16-C→16-D)以降成鳥と同じ成分の配合飼料を給餌。</p> <p>87日齢: <u>多量の脱羽。採食量の減少、尿酸沈着・尿酸糞のみの腸糞が多くなり、体重が減少。原因は不明。→ミルワームの給餌をしながら経過観察。→回復までに約10日間。</u></p> <p>107日齢: 右肢跛行(軽度で出血なし)原因不明。→4日後に回復。</p> <p>134日齢: <u>2羽とも早朝に飛び上がり肩出血。原因不明。同日に</u></p>			<p>1日齢: N30～N33の4羽を育雛器2で群れ飼いを開始(東棟)。自家配合飼料、リンゴ、小松菜、スイバ、ギシギシ、ビルベリーの葉を給餌。ミノサイクリン飲水投与開始。</p> <p>4日齢: <u>N30～33の4羽の食い込み悪くミルワームの給餌、ブドウ糖5%液を補液。ネクトンSの強化。</u></p> <p>5～6日齢: <u>N31とN33にブドウ糖液にスキムミルク入れ補液。ピンセットによるミルワーム、配合飼料、小松菜等の固形物の給餌。→N31とN33が6日齢で死亡。</u></p> <p>7日齢: スイバ、ギシギシ、ビルベリーの葉の給餌は終了。ミノサイクリン投与終了。</p> <p>22日齢: 自家配合飼料の組成を変更(飼料名 16-A→16-B)</p> <p>36日齢: 平飼い飼育へ移行。育雛器はコンクリート面にセットし、ヒーターによる保温は継続</p> <p>48日齢: N30、32の温源室の温度設定を室温に設定し、廃温。</p> <p>71日齢: 4羽とも自家配合飼料の組成を変更(飼料名 16-C→16-D)以降成鳥と同じ成分の配合飼料を給餌。</p> <p>76日齢: <u>多量の脱羽。採食量の減少、尿酸沈着・尿酸糞のみの腸糞が多くなり、体重が減少。原因は不明。→ミルワームの給餌をしながら経過観察。→回復までに約10日間。</u></p> <p>123日齢: <u>2羽とも早朝に飛び上がり肩出血。原因不明。同日にN24、N25にも同様の症状あり。→その後問題なし。</u></p>			

	<p>N30、N32 にも同様の症状あり。→その後問題なし。 156 日齢：<u>N25</u> が早朝に飛び上がり後頭部右側出血。原因不明。→アクリノール消毒。その後異常なし。</p>	
--	---	--